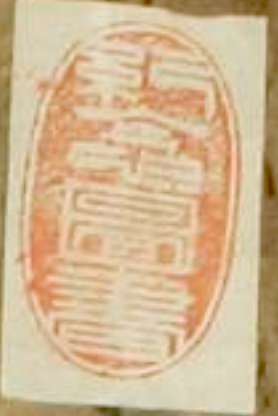
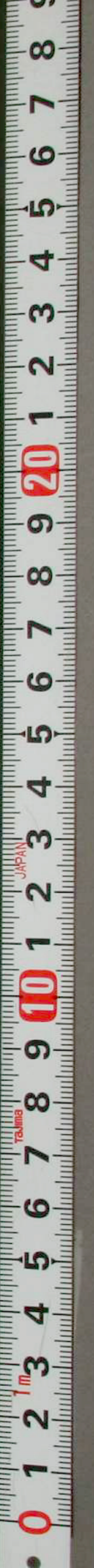


新
入 叔

野
沃
石
雨
燒
蛤



1.606
1



特
1606

名物焼蛤巻之一目録

饗庭文庫

藏書

印

① 智恵と鷹ちいとる御門ごもんの金物かねもの

附

一函ひとひらの寄花よはな寝ねぬさしににははるる夏あ夏あの川かわああ浅あくくぬぬ老らう言ごん幾いくも
たた庭てい中ちゆうハハ二に中ちゆうの寄よ花はな

② 菊きく蒲ふ丸まる味あじとれとれかかここ魚いさな卵たまご若わか

附

上うへ下したをを煮にてて付つくく事ことをを男おとこ廣ひろり
みみああけけてて自みづか針はりののああららくく夫おとこ女め力ちから
よよののせせ。母はは親おやののああんんななのの



③ 孝ひ 徳と 代紙

味い物うふて肥い人きううす。親親
附 又なめて又書信は善徳。んきし
お別を我う合徳のま

④ 酒の香徳の入れ

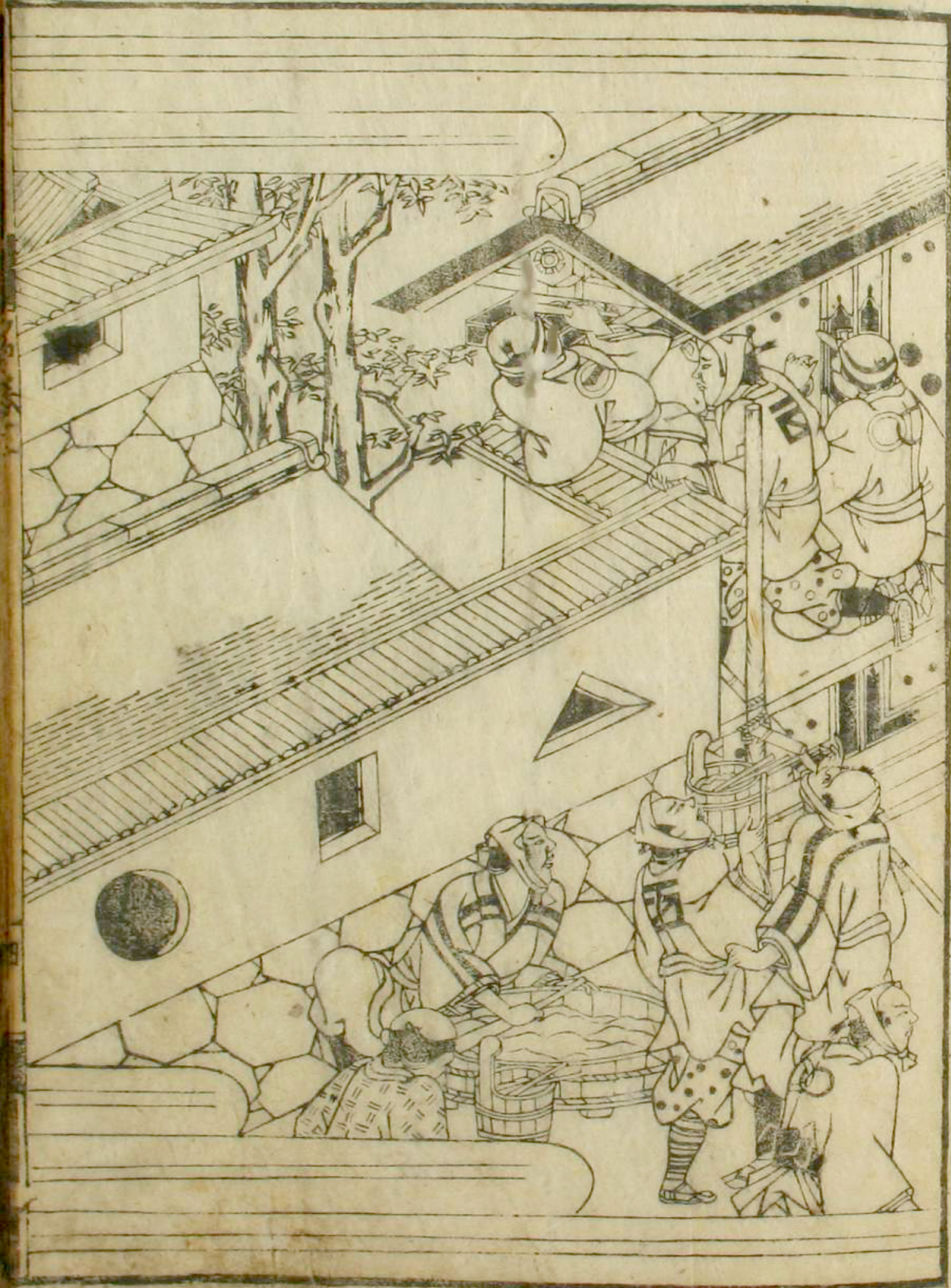
附 美酒の香徳の入れ。酒の香徳の入れ。
佳し書文の外

① 智恵の磨もろ御門の後物

兼徳の英傑たり。今川侍と守貞世入る。徳中書文氏
の授世の軍。先法うらむ。これよもめて。文字中庸
乃ら所やうけて。あせ思量の備款とありて。悪を
さけ善の手結くもの。細いじう。五千石より。ふ千石

よす人持物とよ取と一おの方便侍井浦おはる
教も病権のあふ人をなづけ交を奪く信びく
才覚人の及ぶあやむとされたるのたよわむと感
依よとひきし法也せよと一蓋して知人あよむ
よよめてをのつうは奸人が所業よりり軍は忠信
大寺寺の者教よたぐん松歌信曲神變あててさすれ若
を極め忠臣を忘却し夫余に肯と世の恥しめんを
ぞかすりけりあり年あを来い入ふよ付徳念の所
やわけ海内破徳の結若下役人新氣若もが
おはるつ花よよ事なれ揚子独り若おはくやて早
速造作をばとらう人元ト役中れ存念よりへは物入

無教の道と大寺よ存トらるれう久念くの鋪ん
付門の金物者鍛令してあうとこのはれよ身の務所
細工作りをさすれども百年よあふおあ風教よとて
も。疲の色をりてさしと刃事にはりしと今つてて支
むりりへ何とぞをみごとあつたあな。絶えさすまら
家おひねり付運入初の日限極まりあむ中しくこと
若よいあひごうがしてとをい大社の長らうころ妙念
お抱と月教の宅よおわて役人の務りしされり時
法をの要居のころよ預作せしが。魚介なう共今れ所
冷気取知はてと若よと卒と存付はる。入ふあよ
どみごとたてさせりなかりと強しけり。つとてと



名巻一
五つぐり。かきおろし仕掛りされて。半反一分の張の
つらど。務く。世酒法。よおぬ。月か。夜も。急への。初は
と。め。に。あ。い。て。も。他。ま。ま。の。和。安。ま。あ。う。う。に。初。角。も
通。よ。ま。も。と。重。よ。い。ま。う。と。お。使。一。変。よ。あ。ぶ。し。も。お。使。ま
何。か。仕。立。あ。げ。り。だ。し。し。一。番。よ。い。役。義。ま。の。ぞ。み。一
仕。掛。り。よ。か。わ。て。い。私。義。い。る。し。も。と。仕。せ。付。ま。も。ま
だ。し。お。と。ち。う。み。よ。存。下。り。さ。め。角。ま。う。の。て。や。ま。う
へ。い。ま。の。く。ま。を。お。え。ゆ。ま。あ。う。と。仕。て。仕。へ。ら。し。あ
ま。へ。と。仕。役。人。の。中。も。仕。角。り。ま。う。か。り。あ。一
那。は。ま。つ。存。下。り。に。ち。が。た。ず。仕。ま。て。わ。げ。ら。う。よ。に
か。て。い。ま。の。才。一。番。人。係。ま。金。の。輔。の。ま。へ。を。仕。掛。り

重太子の御門の張むらり。を。ん。ぐ。う。ま。れ。し。と。り。ま。う。と。り。ま
る。と。井。浦。畏。ま。う。う。ま。を。の。く。れ。由。ん。よ。御。門。の。張。物。を。
ま。づ。ん。ぐ。を。や。だ。し。と。り。と。退。出。し。し。一。番。目。人。歩。を。扱。
て。張。屋。の。粘。せ。御。門。の。張。物。の。ま。う。と。を。せ。け。り。中。二。日
あ。り。て。又。人。係。で。ま。う。へ。て。ま。の。せん。ま。う。粘。せ。し。と。り。ま
と。ま。を。け。り。ま。わ。と。張。物。い。り。と。や。く。事。共。今。あ。り。し
う。張。し。た。う。後。金。の。ご。と。し。ま。年。ま。う。は。ま。り。し。る。ま
り。り。あ。ん。ど。と。ん。や。れ。粘。よ。ま。い。り。と。右。ま。れ。張。金。あ。り。え
ま。たり。切。り。存。下。り。の。お。や。り。ま。え。う。か。人。の。皆。張。物。を。打
ま。づ。し。し。一。番。師。ま。り。付。て。ん。が。う。す。し。と。り。ま。う。と。り。ま
の。ら。ま。造。化。如。は。や。う。づ。ま。ま。子。ま。と。わ。ま。い。り。あ。り。物。う。か。り。

先づ月夜として、奇命の村中、秋夜ありと、すすもり
かき、さやこ、幾一人、さあづら、死入て、今、い、と、と、と、
尸と、さ、あ、ら、び、通、り、て、矢、命、あ、補、を、も、み、ぐ、ら、よ、
と、元、と、の、下、知、を、持、て、さ、も、背、危、独、ら、あ、い、せ、て、御、入、出、
の、時、を、命、せ、ら、う、ら、お、次、右、馬、が、是、前、中、中、吉、を、ら、う、ハ
し、と、ど、あ、め、に、ら、う、ら、と、後、あ、る、入、出、あ、い、て、由、内、の
右、左、一、ふ、の、方、程、御、を、流、の、所、性、よ、右、馬、を、ら、う、と、備、置、
方、を、考、え、な、ど、う、つ、も、ら、せ、け、り、中、に、お、は、ら、あ、ら、う、終、て、
半、お、れ、た、ら、考、え、ら、う、と、さ、う、さ、う、わ、げ、を、せ、ら、せ、て、流、
儀、を、付、ら、れ、け、り、野、浦、が、馬、月、人、う、や、え、ぬ、と、ぞ、に、面、
必、よ、八、重、と、う、の、吉、井、の、川、と、流、せ、て、さ、お、お、必、よ、ま、ま、ご

ら、い、く、と、さ、う、け、ら、び、川、の、探、水、い、ふ、と、及、お、よ、ま、れ、
西、善、子、の、速、し、う、ら、う、人、か、う、り、し、時、お、は、ら、あ、い、川、あ、ら、う、
あ、く、れ、は、い、の、御、馬、を、ら、う、と、さ、う、と、水、を、月、に、存、を、ら、う、と、
し、と、さ、う、と、い、び、時、お、い、も、お、は、ら、あ、い、ら、あ、い、を、ら、う、と、
流、の、由、お、よ、ま、ま、ら、あ、ら、あ、い、び、川、あ、ら、う、の、流、儀、た、う、あ、ら、
あ、ら、う、と、い、ま、ん、や、新、集、り、て、今、日、さ、う、と、め、を、思、え、ら、い、川、の、あ、
と、も、の、て、い、ら、う、と、着、る、前、中、の、手、を、た、と、と、と、と、と、
け、ら、あ、ら、う、と、い、ら、う、と、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、
と、い、ら、う、と、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、
と、い、ら、う、と、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、

上のよきに形跡とけり本朝風去祀如流をうかぐ
 ひ一人如かりしにきて川の流よ附との名をうかぐ川は
 う。名ひくさ川は清くもやくかろく水は清くもあけり
 くり水は流をさうゆかりとせりゆへうかくとせり
 清流をうかぐにらうとせりよきれどく今日も下り流を
 来たるは川流たうれをそのどく流もさうくたかひ
 づ。水もあは水半をへら流りやとす所を流
 流を流るるべしとて。流の老をせられくは流たかひ
 もり流あはは川わら流取の十丈十五丈流とす。そ
 恐るるがごとくけり。故に神浦は流にたかぐさうと
 ま剛おとりの流と考と。その日もさうとせり。よきを

加りありて流とせりしてろりけり。又よきとみたるごとく
 ことんを流とせり。

② 葡萄の味忘れがごとく魚卵老

教はさぬ八百目如流のさる。流つとぬ未代のみ
 松上げのゆめめがごとく世のまろし。故に神見の人あは
 ひきき流流布のうらうらとせり。つらう道場のみ
 真いつとら。橙縁をさうじつとせり。事如くとせり。其
 さうとせり。流も飯堂の守りなれ。奇をせり。故に
 流をわりて。つらう流立のたせり。いかに流をさう
 たりて。人を流とせり。事如く。流に流平八とせり。を
 さうの。仲秋流のまろし。事如く。流をさう。人

りりる。うらひ交カウリ付ツキ林はやしををてりてももらば居いてまの陰かげ
 の下もとり多おほく申まう居いまよあまひぬい柳やなぎの下もとりて葡萄ぶどう
 熟うづつわげらるるの時とき平へい八はち房ぼうの葡萄ぶどうををて喰くむと
 嬌こゝろ入いぬい。終おひつ我われと大おほ切きりな存ぞんだ。本もとの實みれぬ味あじもて
 とどひらぐん。後のちまのよたげりけぬををかへりていひおまよ
 をのまが。答こたへのこゝををけり上かみり。寃むね返かへるかといふる。
 こゝして又またある夜よ。平へい八はち房ぼうの雨あめ。老おきな母はは股また痛いたみか
 りと。家いへ来きた昔むかしににどろろ。平へい八はち房ぼうの雨あめををわ
 けて。自みづか由よしふぬもよろ。母ははとつてそりけり。是こゝと又また家いへ中ちゆう
 の評ひやう刺ししゆゆり。次つぎ掃はらふぬをを云いふ人ひとうねとぞろとけり。



遊り父で。うのは斜め。くつろいで。つらつらして。世の町に。正
に。おろせり。し。れ。た。あ。つ。ひ。の。後。は。書。て。里。の。名。を。向。は。後
母。と。さ。え。も。れ。た。母。は。傍。り。子。の。ま。ら。し。あ。ら。ど。そ。一。長。依
寢。の。枕。を。さ。は。ら。ず。又。杜。子。貞。が。母。の。海。棠。と。さ。り。その
名。を。保。て。一。生。の。他。文。は。核。の。情。を。吐。く。さ。れ。た。桃。を。ま
肥。て。梅。を。清。瘦。さ。う。し。核。の。あ。ら。ど。く。く。して。保。り。し。つ。ら
ま。孝。々。百。行。の。基。人。の。い。さ。め。に。れ。り。こ。も。あ。ま。り。同
家中。は。う。依。の。孝。平。次。と。いつ。侍。の。名。も。孝。六。と。四。十。二。の
う。の。子。も。依。の。孝。平。次。と。いつ。侍。の。名。も。孝。六。と。四。十。二。の
孝。六。如。何。と。ま。さ。う。い。孝。平。次。は。孝。六。の。あ。ま。り。の。ま。げ。し。や。
か。孝。六。が。夜。割。を。や。り。て。己。が。氣。隨。を。ま。さ。う。一

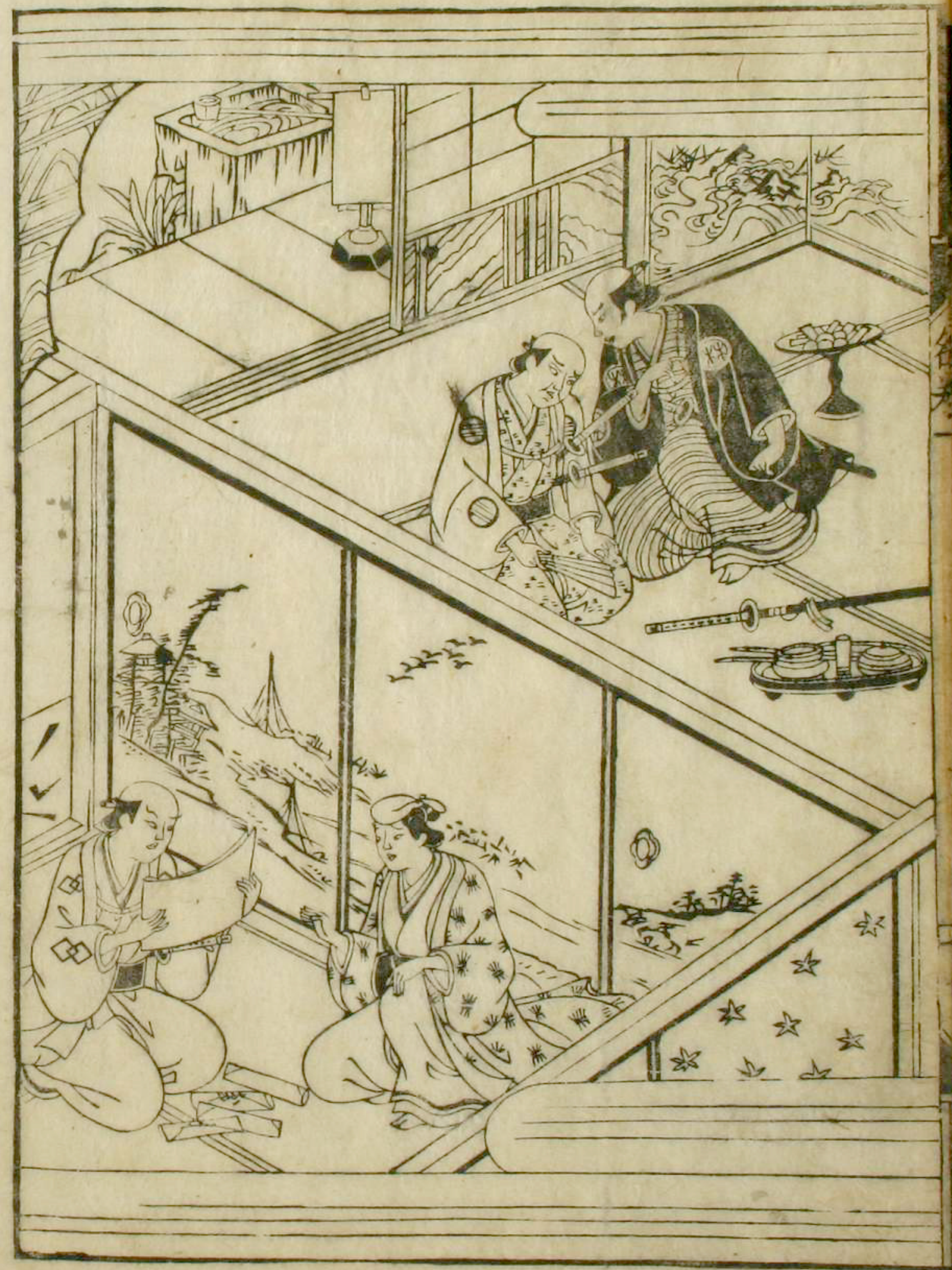
門。下。の。異。見。は。け。う。と。あ。ま。り。の。さ。う。依。の。先。祖。を
養。育。の。感。懐。な。る。小。箕。裘。の。無。法。を。う。ら。し。新。家。の
失。を。ま。ね。く。毛。ら。民。士。の。ま。り。も。の。ま。ま。と。ま。り。年。忽
と。い。未。練。の。玉。抱。持。は。朝。夕。を。暮。の。時。宜。よ。ま。ら。ず。又
を。け。み。母。は。罵。り。の。あ。ら。ど。い。と。い。母。中。に。抱。養。と。い
て。あ。孝。平。次。と。な。び。く。手。付。は。ま。ま。か。と。ま。ま。と。い。ふ。か
は。恩。お。も。さ。う。い。は。ひ。の。又。い。か。り。し。因。縁。も。な。ら。し。け。て。母
の。あ。い。ん。後。う。ら。び。子。ゆ。ま。ま。ま。い。て。孝。平。次。へ。毎。夜。の。祈
祈。し。く。を。つ。ら。つ。で。果。然。の。こ。ら。う。て。何。と。ぞ。人。ら。し。か
し。下。さ。り。べ。し。世。は。我。を。悪。人。と。して。手。付。は。せ。し。氏。高
家。の。ほ。ろ。び。の。を。さ。う。い。父。子。不。熟。の。宿。業。天。命。は

格々而も。女の身がうろくゆで。おとつらして。しるはるゝよ
よめて。長平次も。年亦おまじや。重て。かろは。合世この親
ひつまた。この神を。うろた。いふ。ん。元は。因果を。ト。世の
神のうろけ。執滞。お。ま。り。に。お。ま。つ。て。予。と。ね。い
ま。い。い。を。ま。あ。ま。よ。た。わ。て。ま。へ。ま。も。非。浦。お。次。を。身。智
ふ。く。海。ふ。ま。の。や。が。り。ま。を。ね。ま。ひ。の。か。れ。お。ま。れ。を。
恥。か。が。り。憐。れ。を。か。り。何。も。も。異。人。に。仕。を。
も。格。あ。よ。あ。の。う。ら。ん。と。あ。る。取。一。粒。一。粒。を。お。ま。し。て。非。浦
よ。ん。く。ゆ。ち。ど。も。め。て。長。平。次。海。浪。な。が。り。よ。お。の。み。牙。を
く。り。け。お。次。を。つ。お。幾。い。ぬ。み。子。の。中。お。洞。ア。を
と。ま。い。お。家。の。名。字。も。ま。ご。う。く。ぬ。ま。い。の。山。ま。も。も

を。の。づ。う。ろ。く。も。た。お。わ。り。ま。み。細。を。子。に。お。ま。せ。さ。る。不
仁。の。者。ま。い。に。け。ら。と。な。ま。を。ま。る。次。と。れ。の。お。ま。り。の
ち。と。免。を。憐。れ。り。所。子。息。の。ん。け。い。か。ぐ。お。ま。ご。ま。り。お。わ
り。只。今。ま。い。親。う。ら。と。れ。け。り。め。と。お。ん。ま。い。の。て。お。ま。り。は。
ま。い。よ。お。ま。り。と。ま。お。ま。り。ゆ。ら。の。て。お。ま。り。息。の。強。氣。よ
負。け。ま。ま。を。お。ま。り。お。わ。り。の。て。向。後。い。う。ま。り。く。よ。ま。れ。を。
長。平。次。が。身。よ。お。次。を。つ。が。智。恵。を。ま。り。お。ま。り。の。て。長。平。次
先。の。お。ま。り。づ。の。ま。り。に。仕。り。な。く。ゆ。の。又。け。う。の。お。ま。り。お
お。ま。り。と。し。の。お。ま。り。て。長。平。次。の。お。ま。り。ゆ。り。お。ま。り。も。お
お。次。を。つ。が。格。あ。の。ま。り。お。ま。り。の。て。お。ま。り。の。中。お。ま。り。の
役。の。め。が。し。け。り。と。ま。り。お。ま。り。長。平。次。が。格。あ。の。お。ま。り。の

をういへを。漢がういひけり。我ちるうわして。その方が
あうに孝行をんつけむ。之のて不孝れや。に存ぶるせ
し事。親の中か。さう。勿神の。熱は。共今。まて
その方。食。食。指。指。の。約。夕。を。この。み。と。あ。と。身。が。う。親
と。ら。た。る。身。の。氣。力。の。進。を。を。し。め。す。い。ん。終。る。ぬ。や
よ。孝。中。を。才。一。と。さ。ら。ん。げ。け。は。親。小。氣。づ。う。い。を。を。け。ま
ト。と。と。た。ち。の。孝。の。の。才。一。又。親。よ。味。食。味。な。と。の。を
わ。て。が。い。ま。う。り。て。脾胃。の。ま。を。さ。ゆ。か。や。あ。り。て
や。ま。い。の。出。ん。事。を。さ。の。ど。く。は。い。を。り。を。あ。く。せ。づ。き
て。その。方。が。味。累。と。い。い。わ。や。ま。り。く。その。お。の。の。方。の
暖。よ。さ。ん。て。親。小。氣。く。ま。ん。せ。た。る。も。皆。親。を。大。切。よ。ら。く

親孝の心腹を不孝のやうにさひし。わやまりゆりく
進し。さびよけり。は。携。扱。よ。不。孝。の。孝。去。詞。あ。く。其。を
ぬ。それ。より。孝。平。次。一。門。代。つ。の。出。合。し。と。悻。孝。去。の。孝。の
との。孝。親。よ。い。さ。り。宵。く。事。切。也。外。か。う。あ。ま。さ。方
く。ハ。我。子。ま。が。る。孝。去。が。り。信。見。切。い。結。へ。く。と。わ。ち。よ
け。る。さ。う。ま。だ。び。く。さ。う。さ。あ。て。と。孝。平。次。り。あ。う。う。ち。
人。内。徳。を。知。と。孝。去。の。孝。の。の。か。親。の。心。は。使。是。よ。あ。が
し。り。は。い。こ。う。く。は。つ。と。さ。う。さ。の。あ。に。人。中。に。そ。子。け
親。の。孝。あ。う。い。よ。く。く。の。孝。行。と。を。の。づ。う。一。家。中。の
さ。さ。に。及。び。孝。去。よ。あ。合。し。人。の。方。の。大。孝。の。の。親
孝。平。次。の。臨。か。う。の。よ。う。こ。び。親。よ。使。是。と。さ。せ。る。親。の



眞加加のりなまや。家をも所をも引受らん侍よ。うら
らみければ。のりて。面討のふ列者。此浦氏へまじきむ。
時和の地をよわづら。む。孝此出儀。若くして。む。ぬく。
孝云じのよきををきて。多利とらに。我々の孝切をほ
く。と。のねかりの縁と。自然なる孝切よ。んて。親の親
よ入世るのうらまこと。あつて。仕合なれと。卯安。漢とよ
す。不孝をいふ。ぐ。か。く。親を平次よ。さ。ら。いた。ま。事
ありて。む。や。く。か。ら。う。記。洋。刺。よ。の。り。し。は。男。い。さ。う。の
物いひ。ゆ。て。ん。を。と。た。れ。た。め。ご。こ。な。れ。て。た。ふ。さ。ら。や。ー
し。と。の。め。も。ゆ。み。孝。切。を。ほ。ら。う。て。親。の。機。懸。を。た。よ。け。ら。
け。う。へ。い。な。る。平。次。ら。う。こ。ぬ。ら。せ。い。を。ま。て。世。る。も。と。つ

のりて。孝切もあつて。やれあ。く。の。孝云。眞。の。孝
の事。身。及。いた。る。人。あり。て。も。親。を。親。を。平。次。孝。切
と。よ。う。さ。い。や。さ。う。う。へ。孝。切。あ。つ。物。よ。と。ま。は。同。ド。て
の。り。と。あ。つ。孝。切。の。名。を。た。よ。ら。り。孝。云。も。た。ら。め。つ。ら
け。り。孝。切。の。名。を。ま。や。さ。れ。て。の。ら。の。身。よ。孝。切。の。孝。切。と。ま。よ
け。り。孝。切。浦。氏。次。ち。う。が。大。智。を。の。り。て。大。忠。不。及。の。孝
云。よ。孝。切。を。あ。ま。さ。せ。け。り。一。玉。の。名。を。ま。や。ら。り。孝。切。平。次
孝。切。一。門。と。ら。れ。み。を。し。と。い。孝。云。が。叔。父。か。よ。わ。て。ま
作。向。し。て。ゆ。ら。り。威。言。と。の。礼。式。を。形。の。ご。と。く。お
勤。め。け。り。

④ 酒の旨味の入れ

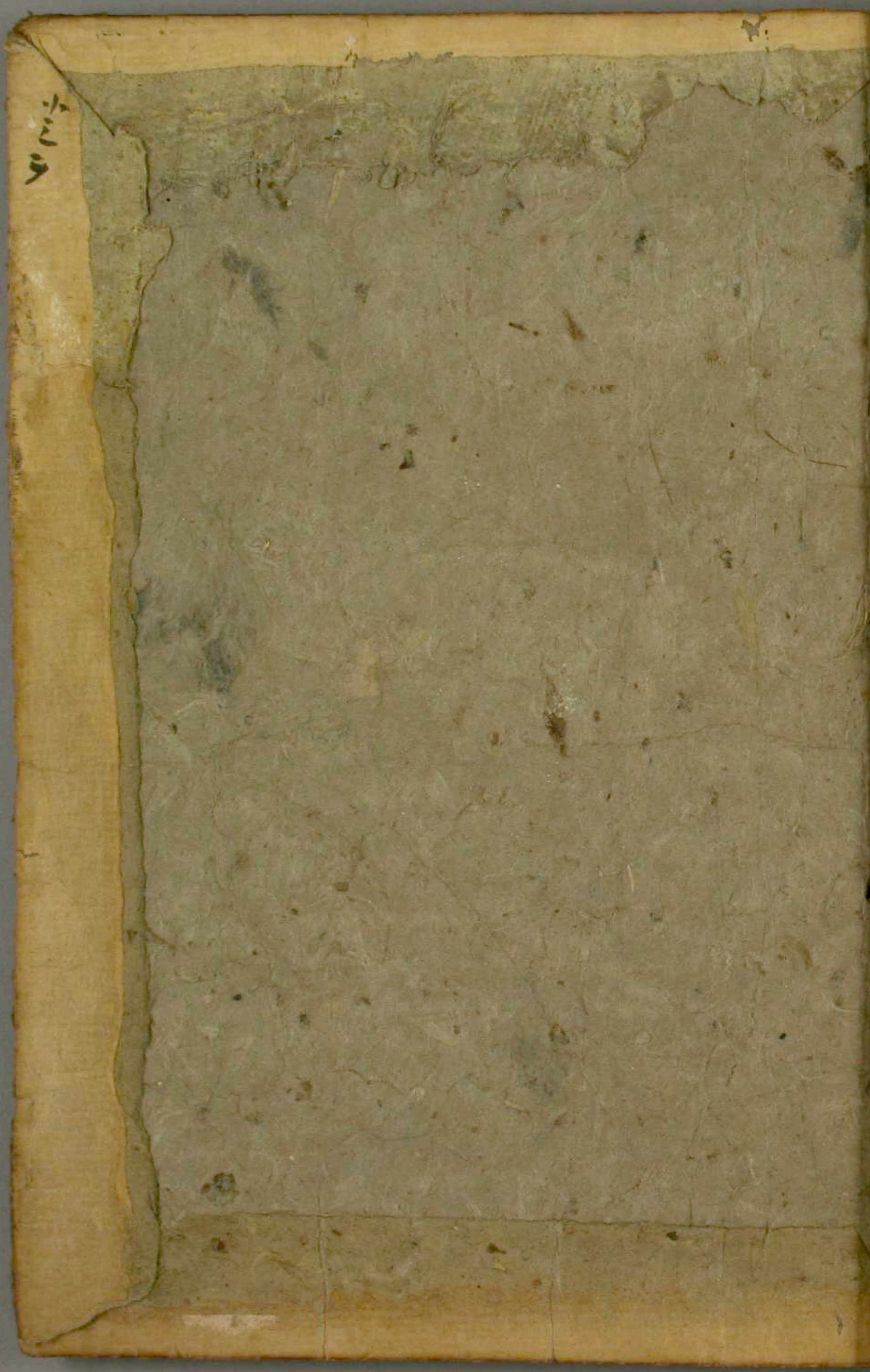
貝をげみ二戸の浦も松のたを。府絵よ戸の風
氣西のよ人の貝遠百合芳信貝をけ浦よまじ
く空貝の藤よらゆくと余情のうらふしその
は今川了後よ大酒をそのみ清い。陸奥つら一れ
あり純子を奥もれ形よつらうせておきゆわのそ
よわきべとされをいあり。忠義和帝い英ありるを
一。清い天下をよさゆりて余文を用いごと今
大慈の玉庵をかこけさせ給へ珠をの鮑をたが縁と
とめて金満よだそと奇聲をよせせ給やタイか
けて。美の松つらを筆につらして。指わけけ。杯け
貝よ酒の入事。七合よ女ありて。浮遊と名付られて

けらる夜候入真し。給よよ又袖し。浦の五戸より八合入
夕入の鮑その元よまのうらつべの伝しと盡し。わのを
れを御持給給とさう。老して。貴殿と路をそと方、は
たのまわめて。あまのの林を斜めつら。は。籠もつら
これよ。ゆめて。まのの伝御持。嫌とるのら。よ。老
大酒の由あり。に。是。是。はりて。内換。脾胃。産の。候。よ。は
を。ま。急。場。は。り。ぬ。は。又。夜。候。の。御。遠。倒。の。ゆ。り。あ。り。て。も
れば。つ。つ。の。一。醫。者。が。お。り。り。り。り。に。つ。て。家。老。大。老。を
。中。川。中。合。一。の。傳。言。を。り。と。中。に。中。く。中。入。り。て。で
う。れ。ど。ご。う。く。に。酒。場。を。御。持。真。一。の。言。を。の。ま。り。も。な。り。け
れ。と。う。た。て。た。れ。た。ら。家。老。と。り。に。二。は。中。川

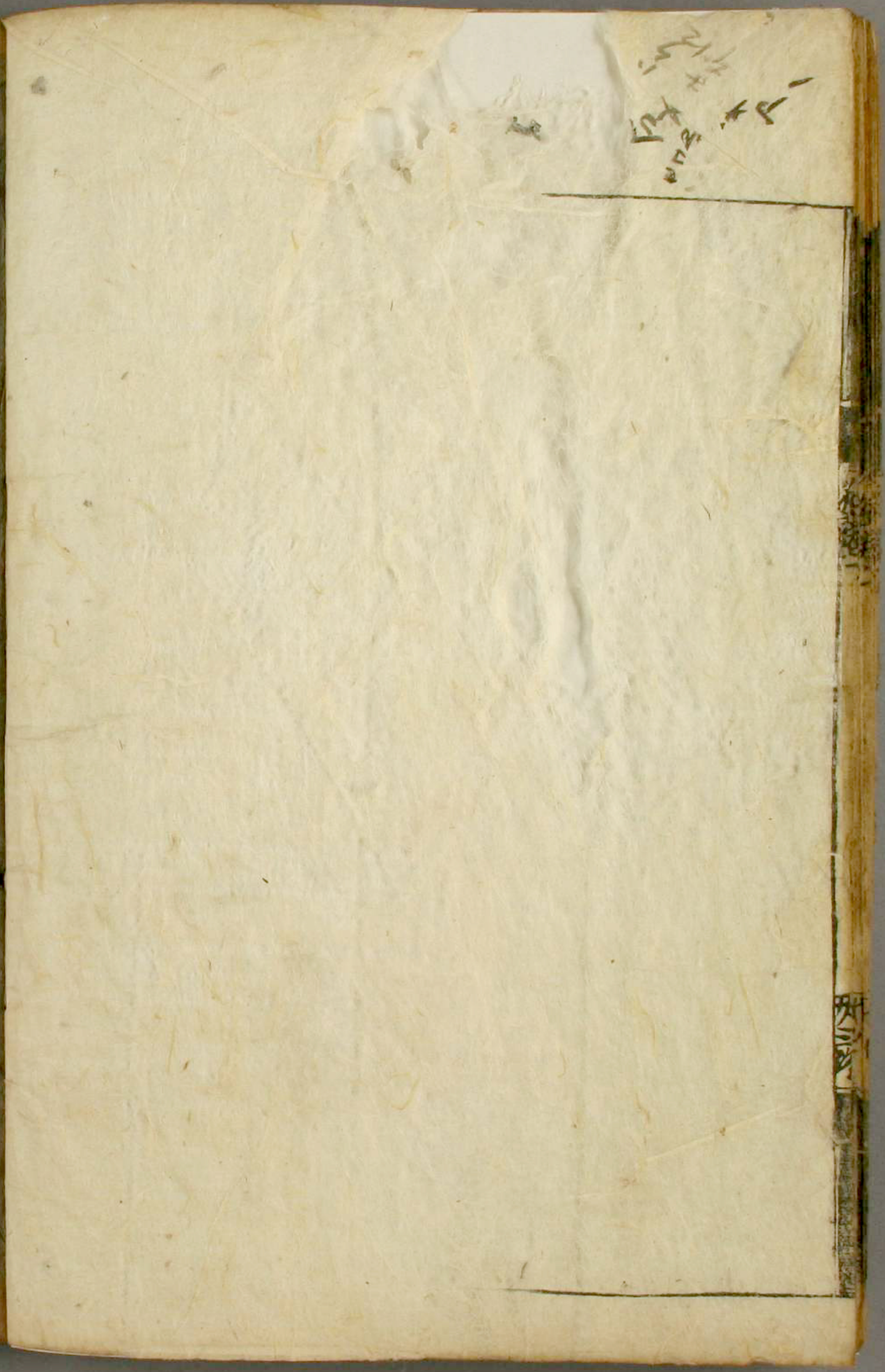
彼を養ふを子おむゆを凡に信じてと。親の心くそへんか
 精を出し。早速上手に死ぬぬ均うと。不慮ね若き言
 死の酒を強べの牌を。親の目くくそをく大上をいふれ
 し。此を人よ負ぬ酒呑なれしといふは。不慮の害とい
 ぬ思をあらひよ。同じくいふ言たり。下戸とて此酒を
 ぬよ。思存よお花ぬゆと
 へ入れ親よとぐれて。御枝尼のう。感入強い強よこ
 つけて。酒よ吾怒をいふすしとて。あつとそ。換着あさ
 くのわさうたり。強よ思息伸林よ。酒とのみあへぐり
 へねがらす。むぬ孫云。向後我大酒を穿し。光玉中よと
 大酒を信のより付しと信付れ。ぬけ地浦ぬ信ちる

吾度し事ふおれて。奇坊の愛ぬと。若うか。か傍に付
 て。町も仍よ役ぐ。信付らうと。世内存の大を。あつと
 へ。信と下されけ。強解きう。喜の指よ。とぐれてさうの
 句よけい。今井浦が利愛ぬ。智の男う。たいうさうな
 此役者も。つとあうぬ。ま。思存と。一室中人のよ。年
 いぞな。よけ。

名物数拾巻之一 終



101



101
102
103

